

よりレベルの高い教育をめざします

城北中学校

〒174-8711 東京都板橋区東新町2-28-1 ☎(03)3956-3157 FAX(03)3956-9779
ホームページ <https://www.johoku.ac.jp>

校長 小俣 力

男子校

教育方針

深井鑑一郎先生、井上源之丞両創立者の提唱した建学の精神を堅持し、青年期の間人形成と大学進学指導の徹底が本校教育方針の二本柱です。

人間形成においては、「着実・勤勉・自主」の校訓の実行を目標として有為なる青年の養成をめざし、広々とした校地・諸施設・緑豊かな環境を最大限に活用して、学習・課外活動の両面から自立的な人格の形成を図り、各自の個性伸長を努力目標とし、実社会においてリーダーシップを発揮できる力を養います。

中高一貫教育の実践

平成16年から中学7クラス、高校9クラス編成による中高一貫主体の体制になりました。この一貫教育は、本校独自の3期指導体制のもとで進められています。最初の2年間を基礎期、つぎの2年間を錬成期、最後の2年間を習熟期として3期制をとり、通常の中学・高校とは異なる編成にしています。

英・国・数の主要科目については授業時間を増やし、基礎期では中学各教科の基礎力と応用力を身につけます。錬成期の中学3年にあたる時期から高校の教科内容の学習に入り、習熟期になると各自の適性に合わせた多様なカリキュラムの下で、志望大学をめざします。また、音楽、美術など情操教育や課外活動のための施設、行事も充実しています。



豊かな学園生活のために

本校は35,000m²の校地に32,000m²におよぶ全館空調完備の中学棟、高校棟を構え、その中に充実した特別教室、大小16のゼミ室、理科フロアー、進学センター、図書館などを備えています。また、 commonsペース等の生活スペースのゆとりも重視したものとなっています。25m7コースの室内温水プール、バスケットコート2面のメインアリーナ、卓球場、トレーニング場、体育館としても機能する多目的ホールなど体育施設面も充実しています。さらに放送スタジオ、最新機材の整った視聴覚室、昨年度、各教室に65インチ大型モニターが設置されました。



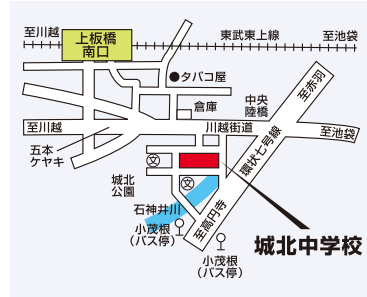
城北中の体験授業

受験生へのメッセージ

中学・高校時代は、子供から大人に脱皮する時期です。親の保護の下にある自分ではなく、何事に対しても自分が主役となれるよう、社会性や創造性、人間性を高め、正しい判断ができたり、責任を自覚できるようにならねばなりません。

本校の校訓である「着実・勤勉・自主」はそれらの実現のために、各自がしっかりとばげんでいく目標を示したものです。

積極的に自己の可能性、創造性をはつらつと追求していく生徒集団。これが本校の求める生徒像です。そうした城北で自分を磨いてみませんか。



- ・東武東上線「上板橋駅」南口下車 徒歩10分
- ・東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原駅」下車徒歩20分

学校を訪問してみよう!

学校説明会(要予約)

10月6日(土) 13:30~
※2月23日(土) 13:30~
※小学4・5年生対象

入試説明会(要予約)

11月23日(金祝) 10:00~
12月1日(土) 13:30~
※両日とも同じ内容です。

クラブ公開(要予約)

10月27日(土)【受付】13:00~
活動の見学と体験参加

体育祭(見学は自由)

9月8日(土) 8:30~
※雨天順延

文化祭(見学は自由)

9月29日(土)・9月30日(日)
「受験相談コーナー」設置

募集要項(平成31年度)(予定)

	1回目	2回目	3回目
募集人数	約115名	約125名	約30名
試験日	2月1日(金)	2月2日(土)	2月4日(月)
願書受付	1/10~1/30	1/10~2/1	1/10~2/3
	※全日程インターネット出願		
試験科目	国語・算数・社会・理科		
合格発表	2月1日(金) 19:00	2月2日(土) 20:00	2月4日(月) 19:00
入学手続 〆切	2月4日(月) 14:00	2月4日(月) 14:00	2月5日(火) 16:00

特別企画



安田教育研究所

安田 理先生の学校探訪!

門に入ってすぐのところの大きなヒマラヤ杉が立っている。創立時に地元の人が寄贈してくれたものだ。だから学校の発展と共に成長してきたわけである。この大樹のように生徒を大きく育てあげたい、それが城北教員の願いである。天に向かって凛と立つ幹を支える根。その部分を強く、また広く張れるように、オールラウンドに学ばせようと、全教科の先生が協力している。



校長 小俣 力



チャレンジングな姿勢が感じられる

近年は学校説明会で、アクティブラーニング、ICT教育、英語の新しい取り組み、プログラミング教育……を、語るどころが増えてきている。で保護者の方は、どこもがそうしたことに積極的であると思っている。が、いろんな私学と接している私からすると、新しい取り組みに熱心なのは、近年共学化するなど学校を作り変えた学校、偏差値が低くて生徒募集に苦戦している学校などが多い。

概して、偏差値が高い学校、伝統校は危機感がなく、また変化を好まない風土なので新しいことには消極的である。城北のような男子校ですときている学校、安定して生徒が集まり、かつ大学合格実績も安定しているような学校で、積極的にICT教育を展開しているようなケースはむしろ例外である。

城北は、生徒にタブレットを活用する教育を行う前に、まず教職員が使えるようにならないといけないと、平成27年に教職員にセルラー型iPadAir2を配布、今では会議、連絡もペーパーレスになっている。その後、平成28年に普通教室全教室に65インチの大型モニターを導入、生徒にセルラー型iPadProを貸与、平成29年にiRoom(タブレットを使ってグループ学習がしやすい形状の机が置かれている)を設置……と、ICT教育の環境づくり、授業での実践を着々と進めてきた。

今年の高校の推薦入試では数学で受験

生にiPadを使わせる問題を出して話題になったほどである。そのほかでも、学校説明会でiPadを活用するなど他校がやっていないことを実践している(私はいろいろな学校の説明会に足を運んでいるが、城北以外では経験がない)。こうした点からも先生がチャレンジングな姿勢を持っていることが感じられるのである。

自分たちの学校は自分たちで良くする

先生が動かない学校をたくさん見てきているだけに、積極的な土壌がどうして生まれているのか、背景を知りたくなり、小俣力校長に尋ねた。
・現場からの提案で授業をお互い公開し合っている
・外部の研修会に積極的に出かけている教員が多い
・授業アンケートを実施し、授業力の向上を図っている(生徒がワクワクする授業を目標にしている)
などが上がったが、何よりも先生たちが「自分たちの学校なのだから自分たちで良くしていこう」と前向きな姿勢であることが大きいという。

これからは意識して「発信力」を高める

年中行事には他校にもよくあるもの以外に「筑波体験学習」「対人関係を考える会」「自分の将来を考える会」「城北イングリッシュ・シャワー」「自由研究発表会」「私

の主張コンクール」……などバラエティーに富んだ行事がたくさんある。

こうした行事を通して学校が近年力を入れていることが、「発信力」を高めること。これら行事以外でも「オリエンテーション合宿」「遠足」「中3修了式」などの際にそのつど発表の場を用意している。

これからの時代は、自分とは異質な人たちとやり取りする機会が格段に増えるから、自分の考え・意見を相手にわかるように伝える力が欠かせない。そのために中2の総合学習ではiRoomで「パワポの作り方」「プレゼンテーションのしかた」などを学習するようにしている。

充実した施設が自由でのびやかな校風を作る

あまり目立たないが城北のすばさは各種施設がそろっていることだろう。屋外には、23区内でもっとも広いグラウンド、全天候型舗装のテニスコートが4面、弓道場などがある。屋内も、体育館、温水プールのほか剣道場・柔道場・トレーニングルーム・卓球場まである。特別教室では、地学まである理科実験室、実技系では音楽・書道・美術のほか工芸・技術室まである。図書室の蔵書も6万冊、技術・産業界の蔵書も充実している。

生徒がどんなジャンルに興味・関心を持って、それを伸ばせる環境が整っているのだ。さらに共働きの保護者に嬉しいのが、広い食堂。昼食以外に朝・放課後も利用できる。他校では中学生は利用できないところがあるが、城北では中1でも利用可能だ。

もうひとつ大きな特徴が、職員室が中1・中2の「基礎期」、中3・高1の「錬成期」、高2・高3の「習熟期」ごとに分かれていること。各時期の発達段階に応じて、情報交換を密にしながら、指導ノウハウをしっかり身に着けた教員が対応するようにしている。

こうしたところにも男子校一筋の豊富な経験を感じさせる。

若手教員の先進性と経験豊富なベテランの味とがうまい具合に同居している学校である。